経筒です。銘より平安時代後期の大治元（1126）年製と考えられます。願主が経典を埋納するために使われた容器で、総高は 27cm です。別個体の同形の天蓋のみのものが一つなど、大行事八幡社には三個体分の経筒があります。現在は、保存のため豊後大野市資料館内で保管されています。

鰐口（加賀知鰐口）

個人蔵　昭和48年3月20日指定

鰐口（わにぐち）とは神社や寺院の堂前、軒下に下げ太い紐で打ち鳴らす仏具で、この鰐口は面径 20cm で青銅製です。銘文から、文安 6（1449）年に住江村地蔵堂に奉納された後、天文 15（1546）年に円通寺に移されたことが記されています。

羽田家鰐口

個人蔵　昭和52年3月31日指定

面径 17.4cm 青銅製の鰐口（わにぐち）です。銘文には、永正 17（1520）年に願主□藤太郎が「天長地久・諸世安穏・後生善処・皆合満足・子孫繁栄」のため奉納したことが記されています。

神角寺懸仏（四）

朝地町鳥田　昭和49年3月19日指定

神角寺本堂内に掛けられている 4 面の懸仏（かけぼとけ）です。径 40cm を計り、中央に千手観音、左右の花瓶と、尊の頭上に天蓋（てんがい）・瓔珞（ようらく）がついています。室町時代前期の作とされています。

上津神社鰐口

大野町　昭和52年3月31日指定

永禄 12（1569）年在銘の鰐口（わにぐち）です。奉納者として記されている「戸次道雪（べっきどうせつ）」は大友宗麟の重臣として知られる名将です。当時大野は戸次氏の本地でもあり、上津神社は大野荘の鎮守でもあった由緒を持つことから、歴史的価値の高い鰐口です。

大迫磨崖大日如来坐像（大迫磨崖仏）

千歳町長峰　昭和51年3月30日指定

大迫区の県道（旧国道 57 号線）沿いの壁面に彫り込まれた磨崖仏です。最大の特徴は、岩肌を彫り込んだ大まかな像の上に、麻などの繊維を混ぜた粘土を塗って表面を仕上げる石胎塑像（せきたいそぞう）とも称される技法で造り出されています。像高は 3.3m で、鎌倉時代後期の作と推定されています。



大迫磨崖大日如来坐像

木造阿弥陀如来坐像

犬飼町柴北　昭和63年3月15日指定

柴北の大聖寺の本尊でもある木造の阿弥陀如来坐像です。像高は 87cm で、頭部と体幹部を桧の一材で彫り出され、おだやかな面相と整美な着衣は平安後期の特色が現れています。

（5）大分県指定有形民俗文化財

辻河原石風呂

緒方町辻　昭和41年3月22日指定

緒方川左岸の岩壁に刳貫いて造られた、浴室と火室の二段式構造の石風呂です。安置された宝塔 2 基から 16 世紀後半に作られたと推定されます。石風呂右上には梵字（ぼんじ）の彫刻があり、仏教との関連が濃厚な施設です。地元では、石風呂を「塩石（えんせき）」と呼んでいます。



辻河原石風呂

市穴石風呂

緒方町原尻　昭和41年3月22日指定

緒方川右岸、原尻の滝の約 200m ほど下流にある石風呂で、浴室と火室の二段式構造です。明治初期まで使用されたと伝えられています。

中ノ原石風呂

緒方町井上　昭和42年3月31日指定

井上区の宅地裏山に造られた石風呂で、他の石風呂と蒸し方に違いがあることが特徴です。室内左手に水溜用の掘り込みがあり、右側奥にかまどが設置されていて、蒸気を発するときはかまどで焼いた石を水溜に投げ込んで蒸気を出したといわれています。

上戸石風呂

緒方町原尻　昭和49年3月19日指定

原尻の滝より上流右岸の川岸岩盤を刳貫いて造られた石風呂です。浴室と火室の二段式構造であるが、火室は狭くまっすぐに伸び、左右に 4 本づつの火道があります。明治期に造られた石風呂とされています。

庚申塔

千歳町前田　昭和46年3月25日指定

千歳町前田にある巨大な庚申塔です。総高 255cm で慶長 8（1603）年当地の武士広瀬九郎兵衛によって武運長久・子孫繁栄のために造立されています。中世庚申信仰を知る上で貴重な資料です。

（6）大分県指定無形民俗文化財

浅草流松尾神楽

三重町松尾　昭和52年3月31日指定

松尾区城山神社に奉納される浅草流神楽です。江戸時代後期頃に浅草八幡社より伝えられたもので 33 番の舞楽を伝えています。勇壮かつ活発な浅草流の特色を良く伝える神楽座で、近年は子ども神楽を結成し、その活動は後進の育成だけでなく、地域の活性化、青少年の健全育成にも貢献しています。

上田原湯立神楽

三重町上田原　昭和63年3月15日指定

御手洗神社の霜月祭で 3 年に 1 度奉納されています。この湯立神楽は宮流臼杵神楽の流れを組むとされ、臼杵領の神主から伝授されたと伝わっています。寒風吹きすさぶ中に立ち上る蒸気と、荒神が乱舞して炭火やお湯が飛び散る姿は幻想的で、荒々しく勇壮な行事でもあります。

緒方神楽

緒方町軸丸　昭和41年3月22日指定

御嶽流の流れをくむ神楽で、緒方一宮、二宮、三宮に所属する神楽です。もともと、緒方軸丸神楽が中心となった神楽座で、勇壮で激しく、御嶽流神楽の中でもひときわ重厚感のある舞を信条としています。全演目 33 番を伝え、今も大野系岩戸神楽らしい迫力で人気を博しています。

奥嶽流上畑獅子舞

緒方町上畑　昭和52年3月31日指定

市内でただ 1 つの奥嶽流を継承する獅子舞です。応永 8（1401）年に祖母嶽大明神を上畑に勧請した際、当地に伝わっていた銭太鼓神楽に改良を加えて創始されたと伝わるものです。その所作は、御嶽流獅子舞で見られる頭を左右に振る動きではなく、上下に突くような動きが特徴で、比較的ゆったりとしたリズムで舞います。しかし、最も特筆すべきは、大人が団扇取り（口取り）を勤めるところにあり、獅子をあやすというよりも「獅子使い」といった印象を受けます。

深山神楽

朝地町市万田　昭和41年3月22日指定

大野系 3 流派のうち、深山流岩戸神楽を継承する神楽です。深山流神楽には、板井迫神明社神楽座と朝地神楽保存会の 2 つの団体があり、それぞれに継承活動を続けています。深山流神楽は朝地町深山八幡社において発祥したといわれる神楽ですが、36 番という大野系でも最多の演目数を有し、その歴史的背景には謎の部分も多くあります。

犬山神楽

大野町片島　昭和41年3月22日指定

大野町上津(あげつ)神社発祥の上津流岩戸神楽です。文久3（1863）年の記録では 15 番の演目がありましたが現在は 33 番です。一時断絶しましたが地元青年により復活し、平成 16（2004）年から浅草・犬山神楽として古の舞を今に伝えています。

奥畑神楽

三重町奥畑　　平成30年2月6日指定

御嶽神社(清川町）より伝承された御嶽流神楽です。かつては御嶽神社に奉納されていましたが、現在は区の氏神である熊野神社に毎年秋の大祭と元日に奉納しています。

（7）大分県指定史跡

道ノ上古墳

三重町赤嶺　昭和47年3月21日指定

下赤嶺下区の台地先端上に所在する前方後円墳で、全長約 70 mと県南で最大規模を誇ります。後円部頂上に社殿跡や県指定有形文化財の石造五輪塔がありますが、主体部は不明です。確認調査の結果、墳丘は葺石(ふきいし)に覆われ、円筒埴輪や壺形(つぼがた)埴輪が出土しています。築造年代は古墳時代中期初頭と推定されています。



道ノ上古墳(画像中央付近)

大塚古墳

三重町小坂　昭和47年3月21日指定

上小坂区公民館裏の台地上に所在する前方後円墳です。全長約 42.3 mで、後円部に比べ前方部が低く短い柄鏡型です。確認調査で墳丘上には葺石があり、周溝が墳丘に沿って設けられています。東側に接する小型の塚や、後円部頂上の石塔類は後世のもので、主体部については伝承はなく遺物も知られていません。古墳時代前期後半の築造と推定されています。

重政古墳

三重町内田　昭和48年3月20日指定

三重中学校敷地内の通称重政原と呼ばれる台地に所在する前方後円墳です。全長は本来は約 53 m程と考えられます。発掘調査で墳丘上には角礫に近い川原石の葺石に覆われ、二段築成の構造であることが確認されています。主体部については不明ですが、出土した壺形埴輪により築造年代は古墳時代中期初頭と推定されています。

立野(たての)古墳

三重町上田原　平成4年3月27日指定

上田原立野地区に所在する前方後円墳で、全長約 65 mの市内二番目の規模です。墳丘南側を削平で失われていますが、北側は保存はよく、馬蹄形の周溝(しゅうこう)及び前方部西側の陸橋部が確認できます。後円部墳頂部に盗掘跡らしい窪みがありますが、主体部は不明です。墳丘より壺形埴輪や円筒埴輪等が出土しており、古墳時代前期後半の築造と推定されています。

秋葉鬼塚古墳

三重町秋葉　平成6年3月25日

鬼塚区の通称竜王山と呼ばれる台地上に所在する前方後円墳です。前方部及び後円部ともに削平がありますが、全長は本来 52.4 m程度の規模であったと考えられます。確認調査により墳丘上には葺石が数多くみられ、周囲には周溝が確認されています。出土遺物として壺形埴輪があり、中期初頭頃の築造と推定されています。主体部については不明です。

竜ヶ鼻古墳

三重町赤嶺　平成14年3月29日指定

大原台地の南西端上のつつじ公園の隣に位置する前方後円墳です。墳形はかなり改変されていますが、全長約 36.5 mを測ります。後円部頂上に盗掘跡と思われる窪みがありますが、主体部についての伝承はありません。遺物として円筒埴輪が出土しており、古墳時代中期後半頃の築造年代が推定されています。また、南側崖下には古墳時代後期の横穴墓群もあり、古墳時代の墓域として重要な遺跡です。

普光寺磨崖仏

朝地町上尾塚　昭和32年3月26日指定

普光寺は鎌倉時代前期に筑紫尾寺として創建されており、その当時の造顕と推定されます。磨崖仏は巨壁面に刻まれた不動三尊仏で、主尊である不動明王像は像高 11 mあまりで、その規模は県下最大級を誇ります。その右に矜羯羅童子（こんがらどうじ）、左に制多迦童子（せいたかどうじ）を配置しています。

蝙蝠滝舟路跡（こうもりたきしゅうろあと）

朝地町上尾塚　平成9年3月25日指定

明治 5（1872）年に大野川を浚渫（しゅんせつ）し、竹田・犬飼間を結ぶ舟路開削工事が開始され、高低差が約 10 mもある難所であった蝙蝠の滝を迂回する舟路として同 8（1875）年に竣工しました。岩盤を幅 3 m程の水路状に掘削し、下流側は石垣を組み木樋を設けて舟を滑り下らせる特殊な構造であったといわれます。

井上主水左衛門並古・並増墓所（いのうえもんどざえもんなみふる　なみますぼしょ）

朝地町朝地　平成24年3月13日指定

近地区の竹田市境近くの山中に建立された墓所で、石垣上に井上並古（有淵）・並増親子の儒式（じゅしき）墓二基とその間に亀趺（きふ）碑一基、周囲には灯篭群があります。被葬者の井上並古は岡藩主中川久貞に家老として仕え、儒教に則り篤実な政務に功績があった人物で、墓石は久貞と同じ形式です。亀趺碑には表、裏に並古の業績をたたえる顕彰文が刻み込まれ、表は唐世齋（からせさい）（唐橋君山（からはしくんざん））、裏面は石上嵩振（いそのうえたかふる）（牧嵩振（まきたかふる））による選文と記されています。文政 8（1825）年に、父と同じく一代家老となった並増により造営されています。



井上主水左衛門並古・並増墓所

坊ノ原古墳

大野町桑原　昭和51年3月30日指定

桑原区羽部の山頂にある前方後円墳です。通称「ひょうたん塚」と呼ばれ、前方部が細く低い墳形で全長は 46.3 mを測ります。主体部は盗掘跡があり、前方部にある石材は主体部の箱式石棺材の一部とみられます。確認調査で周溝が確認されており、出土した土器などから古墳時代前期後半の築造と考えられます。

五輪塔群

犬飼町田原　昭和42年3月31日指定

犬飼石仏の周辺にある五輪塔群です。石仏の向かって右側の 16 の小龕（しょうがん）を穿った中に、高さ 30cm 前後の一石五輪塔が安置されています。石仏と同じく鎌倉時代の作と考えられます。また、石仏の左側には多くの石塔群があり、なかでも吉弘一曇の菩提を弔うために造立された永徳 2（1382）年在銘の五輪塔は、完形を保ち保存状態も良好です。

（8）大分県指定天然記念物

御手洗神社のナギ

三重町上田原　昭和47年3月21日指定

御手洗神社の鳥居前に神木として植栽されている巨樹です。樹高は約 12m で、株は主幹を中心とする幹の群と北東側にやや離れて斜上 3 本の支幹が集